

新発田商業高校の 皆さんのコメント

温暖化を課題とした探究活動に取り組んだ新発田商業高校の皆さんに、探究を通じて感じたことや市民の皆さんに伝えたいことを伺いました。

温暖化について学びました



左から小野鈴之輔さん、西村唯央さん、佐藤乃碧さん、川口雄生さん

地球温暖化を促進させてしまうものが身近にあるからこそ、温暖化に意識を向けることが難しいのだと思いました。

「冷蔵庫を長い時間開けない」など、少しの意識でも温暖化防止の鍵になると思います。

小野さん

自動車やガスだけでなく家電製品などの使用からも温室効果ガスが排出されていることを知り、生活行動を見直す必要があると感じました。

人ごとと思わず、一人ひとりが少しの行動から変えていきましょう。

西村さん

温暖化は世界的な問題ですが、まずはこの日本が、新潟県が、新発田市が温暖化を止めるためののろしを上げ、市民一人ひとりが小さな取組を重ねて全員で温暖化に立ち向かっていきましょう。

佐藤さん

今までは温暖化について深く考えませんでした。長い間課題に取り組み、大変さを肌で感じました。世界規模で考える必要のある難しい問題ですが、少しずつ取り組んでいきたいです。

川口さん

特集 ストップ!温暖化 CARBON NEUTRAL ～私たちの行動が未来を笑顔にする～



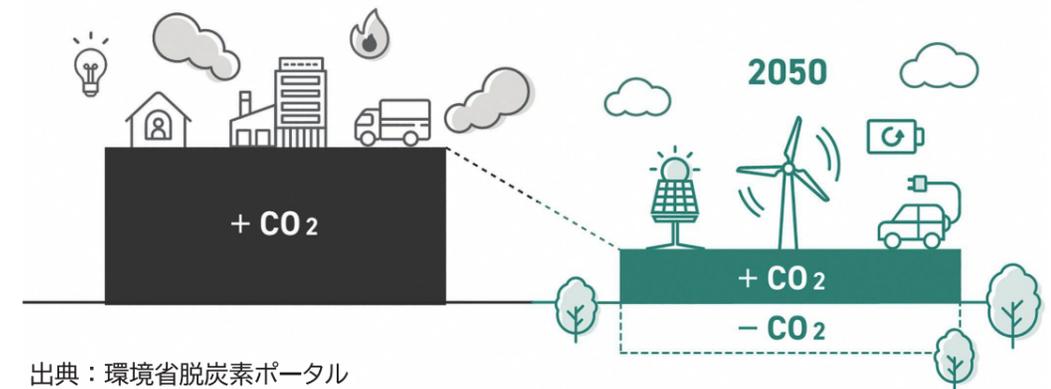
問合せ先=環境衛生課生活環境係 (☎28-9120)

新発田市では、2021年6月に「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることを目指して取組を進めています。

今回の特集では、温暖化について学んだ新発田商業高校の生徒の皆さんと、ゼロカーボンシティの実現に向けて私たち一人ひとりができることを考えてみましょう。

ゼロカーボンとは

二酸化炭素などの温室効果ガスを削減し、温室効果ガスの排出量と、森林などによる吸収量を差し引いて「実質ゼロ」にすることです。



出典：環境省脱炭素ポータル

市の取組について

市では、ゼロカーボンシティの実現に向けてさまざまな取組をしています。

- ▼大峰保育園のZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング)への建て替え
- ▼市有施設、街路灯のLED化
- ▼公用車の電気自動車への切り替え
- ▼住宅用太陽光発電システム、蓄電池の新設費用の一部補助
- ▼主に市内事業者で構成する「新発田市脱炭素社会推進パートナーシップ」

参加事業者を募集しています。詳しくは市ホームページをご覧ください。



▲市ホームページ

私たちができること

新発田商業高校の生徒の皆さんがふだん取り組んでいることや、県が推進している取組「にいがたゼロチャレ30」の一例を紹介します。今日から実践できる取組もたくさんあります。あなたができるチャレンジから始めてみませんか。

住宅の断熱リフォームで、省エネで快適に暮らそう!

断熱は窓から。冷暖房効率アップで省エネにつながります

断熱改修を行い住宅の断熱性能を高めた場合

CO₂削減量 37.3kg-CO₂/月



年間で、杉の木 50.9 本分の吸収量に相当

月に2110円お得!

太陽光パネルを設置して、電気を自家消費しよう!

自家消費で電気代カット。停電時にも利用でき、余った電気の売電もできます

住宅の屋根に太陽光パネルを設置して自家消費した場合

CO₂削減量 211.5kg-CO₂/月



年間で、杉の木 288.4 本分の吸収量に相当

月に13220円お得!

ペットボトルを捨てる時、ラベル、キャップ、ボトルの分別を今まで以上に心がけています



LED照明に替えよう!

照明の買い替えの際はLEDを検討しましょう。2027年には蛍光灯の製造中止が決定されています

蛍光灯か電球1灯をLEDに取り替えた場合

CO₂削減量 3.3kg-CO₂/月



年間で、杉の木 44.5 本分の吸収量に相当

月に210円お得!

寝るときは豆電球も消すようになりました



使っていない家電のコンセントを抜こう!

スイッチ付きテーブルタップの活用も待機電力を抑えることができます

待機時にコンセントからプラグを抜いても支障が少ない機器のプラグを抜いた場合

CO₂削減量 6.1kg-CO₂/月



年間で、杉の木 8.3 本分の吸収量に相当

月に380円お得!

食品ロスを減らそう!

残した食品も、廃棄に使うエネルギーも「もったいない」。必要な分をおいしい内に食べると、CO₂と食品ロスを減らせます

必要な量だけを購入して家族全員が食べ残しをゼロとした場合

CO₂削減量 1.6kg-CO₂/月



年間で、杉の木 2.2 本分の吸収量に相当

月に2830円お得!

ペットボトルをやめ、マイボトルを持っていくようになりました



宅配便は一回で受け取ろう!

日時指定や宅配ボックス、コンビニ受取、置き配などで自分の好きな時間に受け取ると、再配達の燃料使用を減らせます

自分に合った受取方法を選ぼう

受取時間を指定して、一回の配達で荷物を受け取った場合

CO₂削減量 0.4kg-CO₂/月



年間で、杉の木 0.6 本分の吸収量に相当

レジ袋をもらわず、カバンに入れるようになりました



算出根拠など、詳しくは県「脱炭素ポータルサイト」をご覧ください
脱炭素ポータルサイト▶

